

碑」がある。北条時宗の依頼で無学祖元が銘文を記した(『現代宗教』特集「慰霊と追悼」国際宗教研究所編集、二〇〇六)。板碑としての「蒙古の碑」は、仙台住民によって今もなお献句碑として追善供養がなされている。「侵略に來た敵の將兵の追善供養は、敵味方を超越し普遍的な何かが求められており、日本がまだ近代に毒される以前の信仰信心の原型がこの「蒙古の碑」によって象徴されている」(同上二二二頁)。動物慰霊祭も日本独自の営みとされたが、近年中国がこの種の碑を建立し中国有史以来の出来事として注目される。科学者と供養のかかわりにも日本独自の在り方が認められる。その一つは日本人の遺体観にある。《…を》にかかわる問題である。

#### 室町時代における戦死者慰霊

山田 雄司

#### 研究の意義

戦死者に対する慰霊はいかに行われてきたのか、前近代に関する研究は非常に手薄。「戦後処理」の研究は少ない。日本文化の中核を占める死者慰霊。

#### 中世戦死者慰霊の系譜

#### 源頼朝による慰霊

文治元年(一一八五) 勝長寿院建立…父義朝・郎從鎌田正清の首埋葬。平家滅亡の衆たちの菩提を弔う万燈会。

文治五年(一一八九) 永福寺建立…奥州藤原氏・源義経の鎮魂

蒙古の碑(仙台市善応寺)

明徳の乱(明徳二年・一三九二)の慰霊

明徳三年(一三九二) 四月十日、足利義満が施主となり戦死者慰霊としての施餓鬼

○合戦で亡くなった人々の亡魂におびえる。南北朝内乱で亡くなった人々を尊氏が夢窓疎石のすすめで天龍寺を建立して慰霊したのにならい、義満は相国寺で大施餓鬼。山名氏清ら敵味方の戦死者の亡魂を弔う。

『諸回向清規式』憑茲善利救済亡靈者伏願。多生垢憑佛日以消除累劫冤愆杖慈風而蕩滌。

○明徳三年四月十日、足利義満が施主となって逆臣・忠臣ともにその霊を慰めるために千人の五山僧による経の書写や施餓鬼。↓北野万部経会

↓義満のとき、戦死者供養としての施餓鬼定着↑臨濟禅の影響  
南北朝のころ施餓鬼は盆供養と結びつく。↑東アジアにおける施餓鬼の隆盛

中国 宋代に施餓鬼が盂蘭盆で行われるように。

朝鮮 太祖・太宗による国家的行事としての水陸会

#### 施餓鬼の拡大

応永六年(一三九九) 大内義弘が幕府に反旗を翻した応永の乱。鎌倉府も巻き込む。

鎌倉では新居閻魔堂(円応寺)で施餓鬼

足利義持は応永二十三年(一四一六)十月に起こった上杉禪秀の乱における戦死者追善のために、相国寺で大施餓鬼。

○無縁霊↓施餓鬼供養…政争による特定の非業の死者への個別的对処から、不特定多数の死者の供養への拡大

『看聞日記』応永二十八年(一四二一)六月十五日条

○庶民が多数亡くなったことに対して大光明寺(伏見宮家菩提寺)で施餓鬼、また庶民が勧進して五山以下の寺々でも施餓鬼。

天文五年(一五三六)七月天文法華の乱

八月十九日、戦亡施食を清水寺で修する。乱後すぐに施餓鬼。

おわりに

室町時代における戦死者慰霊方法としての施餓鬼の隆盛。鎮魂の機能が期待され、盆行事としても定着し年中行事化。

江戸の笑いと死——安永期小咄本の死生観——

大村 哲夫

現代日本人に見られる宗教意識・行動の特徴の一つは、特定の宗教は信仰しないが墓参や初詣など寺社への参詣は欠かさないことといわれる。こうした一見矛盾する宗教観や宗教行動はどのようにして形成されたのであろうか。筆者は宗教心理学の観点から、こうした日本人の宗教行動や宗教性(個人を超越した存在や問題への合理性に捉れない態度)が、死を目前とした終末期の死の受容や災害など危機の受け止めなどに当たって、無意識の中に大きな影響を与えていることに注目してきた。そこでそうした宗教観や宗教性の源流を尋ねて近世庶民の死生観を探ろうとすると、それが殊の外困難であることに気付かされる。為政者や宗教者と異なり、庶民には自らの思想を表明する機会が少なかったからである。

そこで筆者は江戸期の笑話、安永期小咄(こぼなし)本に注目した。小咄は、一、江戸において出版された『鹿の子餅』

(木室卯雲一七七二)を流行の魁として、天明の饑饉や寛政の改革で終焉するまでのおよそ十年間に限定して行われた笑話のジャンルであること、二、「多く対話で咄を進め、余韻を後に残す会話止めでサゲており、省力を重んじた簡潔さが目立つ」(武藤禎夫一九八七)として他の地域・時代の笑話と区別できること、三、小咄は庶民のなかで製作され、庶民が楽しんだものであり、「笑う」という行為には著者(編者)と読者の間に価値観の共有が不可欠であり、当時の死生観が反映されていると考えられるからである。

筆者は一七七二—一七八一年に江戸で出版された小咄本五十三冊に収録された二八四三話の小咄を対象に分類・分析を行った。その結果、江戸小咄において死をテーマとした話は全体の一〇・五%にみられた。死の話のうち殺人に関わる話題が三〇・二%と最も多くなっている。これは現代人の感覚から見ると、笑話という性格の文芸としては高い割合を示していると考えられるが、からりと仕上げられており悲劇性は感じられない。次いで自死、臨終・死、寿命、死後世界や霊魂に関わる話が多くみられた。自死の原因は、経済的行詰まりなど現代と共通するものもあるが、異なるものもある。例えば現代では、原因・動機のうち「健康問題」が最も多く、自死者全体の約半数となっている(警察庁二〇一一)が、小咄の中には「健康問題」は全く見られなかった。その反面、自死のうち三一・〇%が「心中」であるなど、男女の相対死の割合が多くなっており、禁断の恋愛に死ぬ当時の美学が反映されているとも考えられる。長寿を願う心情に基づく話も多く、「長寿≡幸福」と一般的に受け止め